

令和5年度 鹿児島市健康づくり推進市民会議総会 概要

- 1 開催日時 令和5年9月12日(火) 14時00分～14時40分
- 2 開催場所 市教育総合センター3階 青年会館研修室
- 3 出席者 合計出席 38団体 41名
○市民会議団体(37団体 37名)
○鹿児島市(事務局 4名)
- 4 議長 鹿児島市健康づくり推進市民会議会長
- 5 議事・報告

(1) 会員の参加及び脱退について (P1)

(2) 健康増進計画の推進

①令和4年度推進状況について

ア 会議等開催状況 (P2)

イ 後援名義使用承認の状況 (P3)

ウ 市民の健康づくり推進のための広報 (P4)

②令和5年度取組について

ア 年間業務計画(案) (P5)

③令和4年度実施状況及び5年度実施計画について

鹿児島市 (資料1-1)

市民団体 (資料1-2)

6 主な決定事項

(1) 会員の参加及び脱退について【了承】

(2) 健康増進計画の推進【了承】

7 参加団体からの取組紹介

(3) 令和4年度実施状況及び5年度実施計画について

【鹿児島県民総合保健センター】

センターでは生活習慣病の重症化予防として、健診受診や特定保健指導による生活習慣改善を図っている。また、生活習慣病重症化予防としてがん検診に取り組んでいる中で、令和4年度から「KKB鹿児島放送 ですよ」という情報番組で「鹿児島がん検診キャンペーン がんとーク」を毎月最終金曜午前9:55～コーナーとして持たせてもらっている。コロナ禍において、がん検診受診者も減少傾向にあり、正しい情報を啓発し受診を促すことが必要。

コーナーでは、当センターの医師や保健師、また鹿児島大学病院の先生方のご協力をもらいながら、がん検診と生存率や、働き盛りに多いがんはどういったものか、乳がんや大腸がんなど部位別にテーマをわけてクイズ形式でやり取りを重ねながらわかりやすい情報を周知している。直近の市町村の検診の情報もあわせて情報提供することで、各市町村からありがたいと喜びの声ももらっている。

ただ、令和4年度のがん検診の受診率を見ても、まだコロナ禍前より1割減という状況は続いているので、引き続きわかりやすい情報提供を続け、鹿児島市とも協力しながらすすめてまいります。

【鹿児島県看護協会】

公益社団法人として、助産師、保健師、看護師、准看護師の職能団体で、約1万2千人が加入している。公益事業も行っており鹿児島市民の健康づくりにも取り組んでいる。「まちの保健室」は昭和55年に始まり健康に関する不安を気軽に相談できる場を山形屋展、おはら祭りなど大きな会場を利用して、多い時には年に3回くらい行ってきた。令和2年度よりコロナの拡大で、その間休みであったが、4年ぶりに9月3日山形屋7階社交室を借りて実施、約200名来場があった。今年度から再開となったが介護予防、栄養指導、血管年齢推定機器を利用したの健康チェックや、専門性の高い認定看護師による感染対策等、いろいろな相談を受けた。「まちの保健室」復活によって、アンケートの一部には「4年ぶりの健康チェックが出来て良かった」という嬉しい声もあった。今後も、市民健康まつりや世界腎臓デーのイベント等あるので、鹿児島県や市のみなさんの健康増進に関する事業を行っていきたい。

【鹿児島市スポーツ振興協会】

当団体は2020年に設立された、まだ4年目の組織。もともとは鹿児島市スポーツ課の中にあつた鹿児島市体育協会が前身となっている。

行っている事業は大きく二つに分かれる。ひとつは、市がもともと行っていた事業で、例えば県下一周駅伝の鹿児島地区チームのサポートや、少年団の事務局等である。もうひとつは独自事業で、鹿児島を元気にできるような事業を発案して行っている。

「KAGOSHIMA シティウォーク」という市内をウォーキングする事業もそのひとつ。これまでは、市外だと菜の花ウォークや龍馬ウォークなどのイベントがあつたが、市内は実は代表的なものはなかつたので始めた。令和4年に関しては4回、マグマウォークと題し桜島周辺を歩く、世界遺産ウォークと題して関吉の疎水溝の周りを歩く、日本遺産ウォークと題して喜入旧麓を歩く、せごどんウォークと題して西郷隆盛ゆかりの地を歩くイベントを実施した。令和4年度で257名ほどの参加があつた。

「どこでもヨガ」では市内の色んな所でヨガをしようと、だいたい月に1回のペースで、水族館や都市農業センター、仙巖園等市内各地で行っている。

このようなイベントは市から負担金をもらっているわけではなく、参加料収入で回る様な予算組みを考えて運用している。イベントの企画も大事で、ネーミングをどうするか、内容や場所、どの先生にお願いするかも大切。また市民に普及させるための広報も大切で、申し込みはグーグルフォームを利用しており、申し込み時に「今後スポーツのイベント情報を希望しますか？」の回答を得て、希望する方をデータに貯めていき、何かイベントをする時にその方たちにもイベントを告知している。そこからリピート参加する方も多く、参加を単発限りにしない工夫にもなっている。広報においてはSNSにも力をいれていて、X(旧ツイッター)やインスタグラムをしている。今は特にインスタグラムが伸びていて、フォロワー2000人となっている。

8 その他

アンケートにて、鹿児島市の健康の現状が知れて良かったという声が多かった。